

議員報酬

聴きたいのは あなたの声

議会議員報酬検討委員会 開催



「議員は何をやっているのかわからない」という厳しい声も

「この報酬で生計が成り立つのか」

令和6年1月、町民の代表18名で構成する「第1回寄居町議会議員報酬検討委員会」を開催。町民による議員報酬の検討がスタートしている。会議は全6回で11月までに答申が出される予定。既に行われた2回の会議から「町民の声」を報告する。

第1回（1月20日）
「寄居町だけでなく近隣の状況も知りたい」
「本会議と委員会」「一般質問」「議会基本条例」等の説明を行う。委員から、比較検討の材料として近隣市町の議会の情報提供の要望が出された。

第2回（2月17日）
「議員は何をやっているのかわからない」
「この報酬で生計が成り立つのか」
「全国及び埼玉県内町村の報酬の現状」「寄居町の議員定数・報酬額の変遷」について説明。委員から「費用弁償・政務活動費の支給があるのか」「議員報酬の財源は何か」「議員は何をやっているのかわからない」「幅広い世代で議員になりたい人がなれるのが理想だが、生計が成り立たないのが現状だ」「議員定数を減らせばよいのでは」などの声があった。

第3回以降は、「議員・議会に求めるもの」「議員になるための課題」について意見交換を行い、検討を進める予定。

令和7年度予算で実現！

「モニターに字幕表示」へ

議場は3階、傍聴席は4階のため「せっかく来たのに聞こえずらくて残念」等の声が多く寄せられていた。



↑導入後のイメージ

合理的
配慮

聞こえ方に不安がある方や聴覚障害者に対する配慮として、議会傍聴のモニターに表示する「字幕システム」を今年度導入予定。

町民×議会

ともに進める
議会改革

議会は「住民自治の根幹」。だからこそ、「議会改革」は議会と町民が共に進めるものと考えて。「あなたの声」が、議会を変える。

先進研究

行く聴く考える

視察という名の
政策提案への挑戦

先進自治体の視察により、町の中だけでは知り得ぬ多くの情報を得ることができ。議員がどこで何を見、考え、町のためにどう生かしていくのか。挑戦は続く。

D
X
推進

総務経済常任委員会

町民サービスの
利便性向上に期待

朝霞市「行政情報デジタル化推進方針」



当町でもスタートしている「書かない窓口」普及促進に努めたい

令和4年10月に策定された朝霞市行政情報デジタル化推進方針についての説明を聞いた。方針では重点事項として4つの取組を挙げている。

- ①行政手続きのオンライン化
- ②自治体情報システムの標準化・共通化
- ③BPR（業務改革の促進（AI・RPAの利用推進））
- ④テレワーク環境の整備検討

デジタル化は問題解決手段のひとつであると考えている。

視察後考

朝霞市公式LINEは令和7年1月27日現在で登録者8067人。その活用に注目。令和7年度までに、対象となる20業務システムを、国が示す標準仕様へ移行することは寄居町も同様。計画的な推進に努めたい。

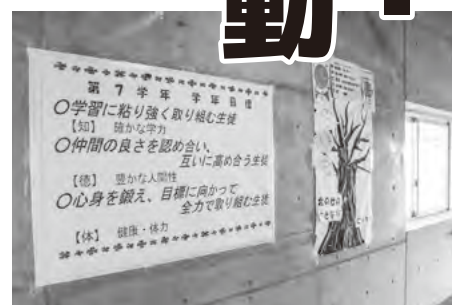
文教厚生常任委員会

小中一貫教育 学習環境の
充実を図りたい

太田市「北の杜学園」・玉村町役場

太田市の北の杜学園は小学校2校と中学校1校を統合し、施設一体型義務教育学校を4年間かけて令和3年に開校。現在も試行錯誤し、良い学校を目指している。

玉村町では、部活動の地域展開では中学校2校で部活動を共同で行っている。また、地域クラブでも部活動が行える。



「第7学年」の学年目標

視察後考

小中一環教育については、それぞれのメリットを再確認し、今後も調査を重ねていく。部活動の地域移行は、学校から切り離すということではなく、地域全体で子どものスポーツ環境を整えていきたい。